

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-278483

(43) 公開日 平成10年(1998)10月20日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

F I

B 4 3 K 25/02

B 4 3 K 25/00

H

G 0 9 F 7/02

G 0 9 F 7/02

Z

審査請求 未請求 請求項の数7 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-96402

(22) 出願日 平成9年(1997)4月1日

(71) 出願人 000156134

株式会社壽

京都府京都市北区紫竹西栗栖町13

(72) 発明者 田澤 永一

埼玉県川越市大字鯨井138番地 株式会社

壽川越工場内

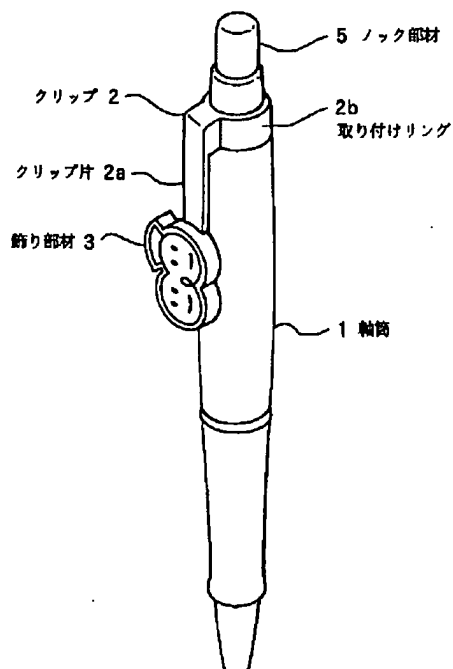
(74) 代理人 弁理士 石橋 信雄

(54) 【発明の名称】 筆記具のクリップ飾り

(57) 【要約】

【課題】 飾り部材をクリップのクリップ片に取り付けるために手間がかかることを解消すると共にプレート状の薄い飾り部材でもクリップへの取り付けを可能とすること。

【解決手段】 筆記具のクリップ飾りにおいて、合成樹脂の飾り部材3の裏面にクリップ2を取り付けるためのクリップ収容部3aを形成し、このクリップ収容部3aに筆記具のクリップ2を配すると共に合成樹脂のシール片4を超音波溶着により飾り部材3に固着することによって前記飾り部材3をクリップ2に取り付けてなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 合成樹脂の飾り部材の裏面にクリップを取り付けるためのクリップ収容部を形成し、このクリップ収容部に筆記具のクリップを配すると共に合成樹脂のシール片を超音波溶着により上記飾り部材に固着することによって上記飾り部材をクリップに取り付けてなることを特徴とする筆記具のクリップ飾り。

【請求項2】 前記飾り部材のクリップ収容部がエンボスである請求項1記載の筆記具のクリップ飾り。

【請求項3】 前記飾り部材のクリップ収容部に嵌合部が形成され、この嵌合部が嵌合される嵌合孔が前記クリップのクリップ片に形成されてなる請求項1記載の筆記具のクリップ飾り。

【請求項4】 前記飾り部材の裏面には更にシール片収容部が形成されてなる請求項1記載の筆記具のクリップ飾り。

【請求項5】 合成樹脂の飾り部材の裏面に筆記具のクリップを取り付けるための突起を形成し、この突起が嵌合される嵌合孔をクリップに形成すると共に前記突起をこの嵌合孔に嵌合・固定することによって飾り部材をクリップに取り付けることを特徴とする筆記具のクリップ飾り。

【請求項6】 前記飾り部材の突起が二股に形成されてなる請求項5記載の筆記具のクリップ飾り。

【請求項7】 前記飾り部材の突起とは別にクリップ挟持突起を更に設けてなる請求項5又は6記載の筆記具のクリップ飾り。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、ボールペン、シャープペンシル、万年筆等の筆記具のクリップ飾りに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、この種筆記具のクリップ飾りとしては、図8に示すようにクリップ片11aと取り付けリング11bとからなるクリップ11にビス（ネジ釘）12で比較的厚い基材の飾り部材13を取り付けて固定していた。なお、図中符号11cはクリップ片11cの先端部裏側に形成された押圧突部である。

【0003】しかしながら、この従来例ではビス12を必要とするため部品点数が多く、ねじ込みにより取り付けなければならないので手間がかかるという不都合があった。

【0004】さらに、筆記具のクリップ11はクリップ片11aと軸筒との間に洋服のポケット等を挟持して使用されるので本来余り間隔がない構造である。一方従来例では、ビス12を使うので、飾り部材13の形状、特にビス12の下端が飾り部材13の表面に突出しないためには飾り部材13が十分な厚みを必要とした。そこで、ねじ込みに適しない極めて硬い素材で作られている

場合には、無理なねじ込みが困難であり、無理にねじ込むことによって飾り部材13を破損してしまう恐れがあった。

【0005】また、逆に飾り部材13が柔らかい素材の場合には、ビス12のねじ込みが十分に効かないで使用中にビス12が飾り部材13から抜け落ちてしまったり、また飾り部材13が薄い場合にはビス12が飾り部材13の表面に突き抜けてしまうという問題点があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】そこで、この発明は上記従来の欠点を解消したものであって、部品点数を少なくすると共にワンタッチで簡単かつ確実に比較的薄い基材の飾り部材を筆記具のクリップに取り付けることを可能とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、この発明によれば合成樹脂の飾り部材の裏面にクリップを取り付けるためのクリップ収容部を形成し、このクリップ収容部に筆記具のクリップを配すると共に合成樹脂のシール片を超音波溶着により上記飾り部材に固着することによって上記飾り部材をクリップに取り付けてなる筆記具のクリップ飾りが得られる。

【0008】さらに、合成樹脂の飾り部材の裏面に筆記具のクリップを取り付けるための突起を形成し、この突起が嵌合される嵌合孔をクリップに形成すると共に前記突起をこの嵌合孔に嵌合・固定することによって飾り部材をクリップに取り付けてなる筆記具のクリップ飾りが得られる。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、添付の図面を用いてこの発明の実施の形態による筆記具のクリップ飾りの実施の形態を詳細に説明する。図1～図3はこの発明の実施の形態を示す図であって、ボールペン、シャープペンシル、万年筆等の筆記具の軸筒1の後部にクリップ片2aと取り付けリング2bとからなるいわゆる抱きクリップ2が後端から嵌合・装着されている。そして、このクリップ2には合成樹脂のいわゆるスマイルマークが2つ連続してなる飾り部材3として固着されている。なお、図中符号2cはクリップ片2bの先端部裏側に形成された押圧突部である。

【0010】より詳しく述べると、この飾り部材3のクリップ2のクリップ片2aへの取り付けを図2と図3とを用いて説明する。飾り部材3の裏側は、その輪郭はエンボス部3aを形成し、飾り部材3の長手方向ほぼ中央部にはクリップ片2aの形状に合わせて上端縁から下方に向かって次第に幅狭とされたクリップ収容部3bが形成されている。

【0011】また、符号4は合成樹脂製のシール片を示し、図に示すようにこのシール片4は超音波溶着によ

て飾り部材3の溶着部に固着し易いように矩形のチップの両側端縁を折曲して起立部4aが形成されている。なお、図1において符号5で示すのはこの筆記具の繰り出し用の後端ノック部材である。

【0012】このような構成の飾り部材3をクリップ2に取り付けるには、まずクリップ飾り部材3のクリップ収容部3bにクリップ片2aの先部を配置・収容し、その後でシール片4の起立部4aをクリップ2に向けて押し付けクリップ2を跨いで飾り部材3に起立部4aが当接するようにセットする。そしてこの起立部4aと飾り部材3とを超音波溶着によって接着してシール片4と飾り部材3とをクリップ2のクリップ片2aに固着する。

【0013】なお、この超音波溶着は、超音波周波数(20~40kc/s)の機械的振動圧力によって加熱を行い熱可塑性プラスチックを溶接する方法をいう。変換器によって電気エネルギーを超音波振動に変え、これをラッパによって溶接するべき部分に向けて、接合面においては振動摩擦によって局部的に熱が発生するが、他の部分には熱は発生しない。軟質プラスチックにおいては振動エネルギーが急速に散逸するので、この方法は硬質および半硬質プラスチックに用いられる。超音波溶着は、高周波溶接をすることができない無極性材料(ポリエステルやナイロン)の溶接に重要である。

【0014】次に、図4及び図5は、この発明の他の実施の形態によるクリップ飾りを示すものであって、この形態の飾り部材3は熊の形をしており、この飾り部材3の裏面は、上端縁から下方に向けてクリップ2を収容するためのクリップ収容部としての縦溝3cが形成されている。そしてこの縦溝3cに直交してシール片収容部としての横溝3dが形成されている。

【0015】さらに、これら縦溝3cと横溝3dとが交叉する箇所にはクリップ嵌合部3eが形成されている。なお、このクリップ嵌合部3eの高さ(厚さ)は飾り部材3の厚さとほぼ同じで十分である。また、クリップ2のクリップ片2aには、このクリップ嵌合部3eの形状及び大きさに合わせた嵌合孔2dが形成されている。なお、図中符号4は上記実施の形態と同様な合成樹脂製のシール片である。

【0016】このような構成の飾り部材3をクリップ2に取り付けるには、まず飾り部材3の裏面の嵌合部3eに嵌合孔2dを合わせて飾り部材3のクリップ収容部3cにクリップ片2aの先部を配置し、その後でシール片4の起立部4aをクリップ2に向けて押し付けクリップ2を跨いで飾り部材3に起立部4aが当接するようにセットする。そしてこの起立部4aと飾り部材3とを超音波溶着によって接着してシール片4と飾り部材3とをクリップ2のクリップ片2aに固着する。

【0017】次に、図6及び図7は、この発明の更なる他の実施の形態によるクリップ飾りを示すものであって、この形態の飾り部材3は猫の形をしており、この飾り部

材3の裏面には、クリップ取り付け用の二組の嵌合突起が夫々形成されている。

【0018】即ち、上位の対向するクリップ挟持突起3fは、クリップ2の幅よりほんの少し幅狭に配されており、クリップ片2aをセットした時に各突起方向(内側に)にクリップ片2aを押えつけるように作用する。

【0019】他方、下位の対向するクリップ嵌合突起3gは、クリップ片2aに形成された嵌合孔2eに挿入されると嵌合孔2dを外方に付勢するのでクリップ片2aを強く嵌合・固設するために上記嵌合孔2dの幅よりもやや広い間隔で対向配置されている。

【0020】そこで、このように構成されたこの実施の形態によれば、飾り部材3のクリップ嵌合突起3gをクリップ片2aの嵌合孔2dに圧入してセットすると、自動的にクリップ挟持突起3fがクリップ片2aの側部を挟持・固定するので飾り部材3がクリップ2に確実に取り付けられる。なお、この実施の形態によればクリップ嵌合突起3gが嵌合孔2dを貫通して突出するので、この突出部分が上記各実施の形態のクリップ片2aの先端部裏側に形成された押圧突部2cと同様の機能も有する。従って、この実施の形態では特に押圧突部2cを形成する必要がない。

【0021】

【発明の効果】この発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に述べるような効果を奏する。

【0022】合成樹脂の飾り部材を超音波溶着によりシール片を用いてクリップに取り付けるのでビス等の部品を用いることなくクリップにワンタッチで簡単かつ容易に比較的薄い飾り部材でも取り付けることが可能である。

【0023】飾り部材にクリップ収容部としてエンボスを形成したので取り付けの際の位置決めが容易であり、かつガタツキがないので取り付けが強固となる。

【0024】飾り部材の裏面にクリップ取り付け用の対向する突起を設けたのでクリップへの取り付けが極めて簡単かつ確実である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施の形態による飾り部材を筆記具のクリップに取り付けた状態を示す斜視図である。

【図2】図1のクリップとクリップ飾りのみの拡大背面斜視図である。

【図3】図2の分解斜視図である。

【図4】この発明の他の実施の形態による飾り部材を筆記具のクリップに取り付けた状態を示す斜視図である。

【図5】図4の分解斜視図である。

【図6】この発明の更に他の実施の形態によるクリップとクリップ飾りのみの拡大背面斜視図である。

【図7】図6の分解斜視図である。

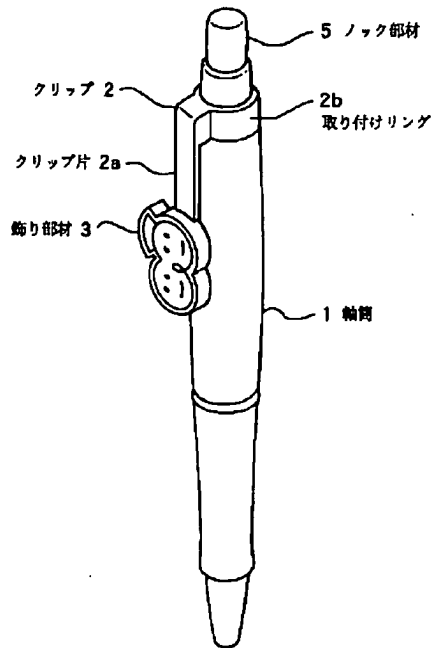
【図8】従来例による筆記具のクリップ飾りを示す背面斜視図である。

【符号の説明】

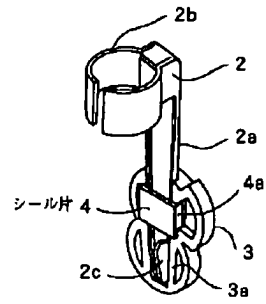
1 軸筒
2 クリップ

3 飾り部材
4 シール片
5 ノック部材

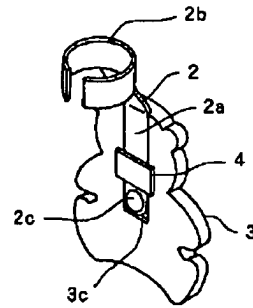
【図1】



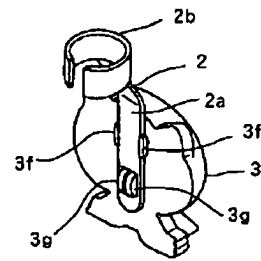
【図2】



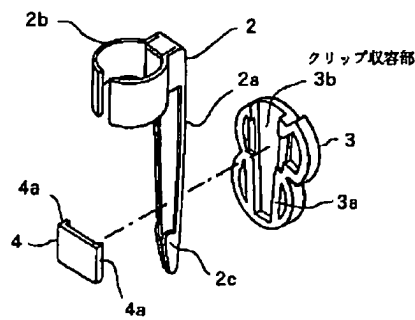
【図4】



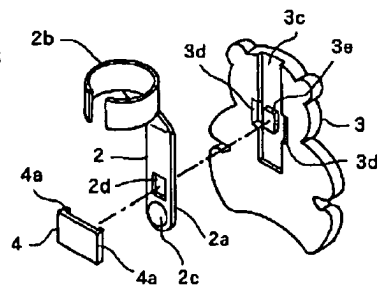
【図6】



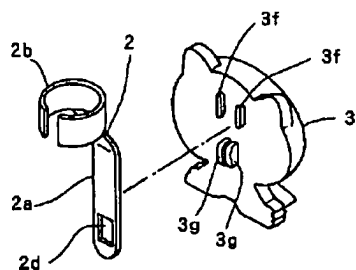
【図3】



【図5】



【図7】



【図8】

